

【多久市教育委員会】

校務DX計画

【多久市の現状】

多久市では、「自らの生活を創造できる児童生徒の育成」を目指しており、あらゆる学習場面において、教職員のICT機器の利活用をさらに促進するとともに、児童生徒自身が、当たり前のように「学びのツール」として端末を活用・操作できる機会や日常使いができる環境を整えていくこととし、平成30年1月からパブリッククラウドシステムの積極利活用による児童生徒の「学び方」と教職員の「働き方」改革プロジェクトを実施している。

現在、学習系、校務系サーバをクラウドに移行し、市内学校に勤務する教職員が教材や各種資料等の教育データを共有することができ、提案文書や教材作成のための時間の短縮に努めている。

令和5年度に実施された「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（確定値）では、「職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れているか」については100%の学校が「取り入れている」とし、「学級・学校経営に有効な教育データ等が必要な職位に応じてアクセス権限が設定されているとともに、活用しやすいように整理され閲覧できるか」という問いにも100%の学校が「できる」と回答している。

【課題】

一方で、「教職員から学校へ提出する事務手続き資料をクラウドサービスを用いて、受け付けているか」については66.7%の学校が「全く受け付けていない」とし、「学校から教職員に紙で提出を求めている書類はあるか」という問いには「ある」と100%の学校が回答している。

また、FAXを使用している学校は100%であり、「押印・署名が必要な書類はありますか」の問いに78.6%の学校が「ある」と回答している。

概ね校務DXが進んでいるなかで、以上のような、長年の習慣から改善できていない課題等も浮き彫りになっている。

【今後の取組方針】

- メールや校務支援アプリを使用し、保護者等との確実な情報共有や、情報の記録およびデータ化が自動で行える環境を活用する。
- 教職員で実施する会議資料など、クラウド間での共有を行うことを推奨し、情報共有もクラウドやアプリを活用したデータでの提供をベースとする。それによりペーパーレス化を強力に推進する。
- 現在、校務系と学習系のネットワークを統合し教職員の端末を1台にすることで、複数の端末を扱うことの煩わしさを解消している。今後は、校務の情報と学習記録データとの連携を図り、学びの可視化を図っていく。
- 総合型校務支援システムについて、必要最低限の情報の付加で各種書類を作成できるようにシステム研修など通じて利活用を促進する。

- デジタル採点活用システムを導入し、教職員の採点時間短縮とペーパーレス化を実現する。また、校務における生成AIの活用を推進できるよう、環境整備・体制整備を図っていく。
- FAXについては、原則使用しない方針を固め、業者等とはメールやシステムを使ったやりとりを推進していく。
- 押印・署名については、証明等絶対に必要なものと、削減を図られるものを区別し、過度な押印署名主義をなくしていく努力を行う。